

活動報告書

報告者氏名： 住谷 志帆

所属： 高等部

記録日： 2013年 2月 25日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

高等部 1年 女子

・ 障害名

疾病による両上肢機能障害，両下肢機能障害，水頭症，右難聴

・ 障害と困難の内容

- ・ 全ての行動（移動，会話，思考，書字，種々の動作・・・）に時間を要する。
- ・ 遠くを見ると眼振が出る。複眼あり。眼鏡使用。
- ・ 机上のものは，時間がかかるが読んだり，見たりすることは可能。

【活動目的】

・ 当初のねらい

教科書の細かい表や図を教師が「カメラ」で撮り，必要な部分を自分で拡大して見ることをねらいとした。

・ 実施期間

2012年 8月 ～

・ 実施者

授業担当者（社会，理科）

・ 実施者と対象児の関係

授業担当者

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

本人はいろいろ自分でやってみたいという意識はあるが、障害のため介助が必要な場面が多い。

1学期は、体調面が優れない日も多かった。また、授業の中で表や図を見る機会が多く、細かい部分が見えないことも学習意欲の低下の一因になる様子もみえた。

少しでも、学習意欲が高まることを願い、iPadのカメラ機能を利用して細かい部分を、自分の手で拡大し、見る事ができれば、自信につながり学習意欲も高まるのではないかと期待して活用を始めた。

・活動の具体的内容

- ・化学基礎、地理Aの授業の中で、表や図を教師がカメラ機能で写真に撮り、それを本人自ら操作し、見たいところを探し、拡大させ、見る事ができた。
- ・数学では、「こくばん！」のアプリで担当教師が、iPadを黒板がわりに使用した。
- ・英語の辞書アプリを使用し、単語を調べた。
- ・英語では、インターネットで単語を調べた。
- ・メモアプリで、覚えておかなければならないことをメモしていた。

・対象児（群）の事後の変化

本人はiPadに興味をもち、週末はiPadを家に持ち帰り、いろいろなアプリを試してみたようであった。また、余暇活動の一環として、iPadの検索機能を使っていろいろなホームページを見て楽しんでいるようである。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

iPadは、自分の見やすい位置で、見やすい大きさに拡大できるという、とても便利なツールである。細かい表などが見えるようになり、学習意欲も高まってきている。また、授業で使用するほかに、余暇活動に広がりが出てきたことがとてもよかったと思う。

・エビデンス（具体的数値など）

1学期は、体調が優れない日が多く、遅刻早退などが多かった。しかし、iPadを使用した2・3学期は、学習面での意欲が高まり、余暇活動も充実し始めた。また、体調面でもよい日が多くなり、遅刻早退の日数が減った。

・その他エピソード（画像などを含めて）

- ・お菓子作りに興味があるので、お菓子作りのレシピのアプリを入れ、見て楽しんだ。
- ・長期休業中には、お絵かきソフトでいろいろ描いてみた。
- ・インターネットで、お店を調べたり、好きな芸能人の動画を見たりした。
- ・メモ等、簡単に印刷できるアプリがあると便利だと思った。

